

施策 1 4 - 2 未来を創造し社会の担い手となる力の育成

【主担当部局：教育委員会】

施策の目標

(めざす姿)

子どもたちが、変化が激しく予測困難なこれからの社会において、変化をしなやかに前向きに受け止めて、失敗をおそれず挑戦する心や生涯をとおして学びに向かう姿勢、社会の一員としての自覚と責任を持ち、他者との協働を大切にしながら、豊かな未来を創っていく力を身につけています。

(課題の概要)

超スマート社会や社会・経済のグローバル化などが進み、求められる資質・能力も変化する中、子どもたちがそれぞれの未来を創造し、社会の担い手となる力を育む教育を進める必要があります。

現状と課題

- ①令和4年度から実施された高等学校学習指導要領に基づき、知識や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力や主体的に学びに向かう力を育むため、探究的な学びなどを通して「主体的・対話的で深い学び」が実践できる教育に取り組んでいます。グローバル化やデジタル化など社会状況の変化が進む中、地域や地球規模の課題を自らの事として捉え、他者と協働しながら持続可能な社会づくりにつなげていく力が求められており、創造的な資質・能力を育む教育に取り組む必要があります。
- ②文理融合・教科横断的な課題解決型の学びを通して、論理的思考力や探究力を育成するSTEAM教育（Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art(s)（リベラルアーツ・教養）、Mathematics（数学））に取り組んでいます。引き続き、教科横断的な探究活動を通じた学習を広めていく必要があります。
- ③新型コロナウイルス感染症の影響の中でも、高校生一人ひとりの希望や特性に応じた就職を実現するため、就職実現コーディネーターを配置し、早期からの求人確保等の就職支援に取り組んでいます。ミスマッチによる早期離職につながらないように、生徒が入学後の早い段階から業種や職種、地域の魅力ある企業の情報を得て、主体的に進路選択する力をつけられる取組を進めるとともに、地域の企業の協力を得たキャリア教育に取り組む必要があります。
- ④航海実習を行うための実習船「しろちどり」について、建造から20年以上が経過し老朽化が進んでいることから、新たな実習船の建造工事を着実に進めていく必要があります。
- ⑤新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、高校において海外研修などの実施が困難な状況にあっても、テレビ会議システムを利用して海外姉妹校等と相互に文化を紹介し合う取組や、英語でのディスカッションやディベートなどを実践するセミナー等を実施しています。今後も引き続き、生徒が国際的な感覚と広い視野を身につけられるよう、取組を工夫しながら、将来、世界で活躍できる人材の育成を一層推進していく必要があります。

- ⑥小中学校において英語による言語活動を行う授業が進むよう、指導方法や評価に係る教員対象の研修会や、小中連携等の効果的な実践の研究に取り組んでいます。また、中学校においては、三重の魅力英語を発信する取組や、郷土について課題解決型学習の手法により学ぶ郷土教育を実施しています。今後、県内の各地域の学校で、三重県に誇りと愛着を感じ、地域に貢献する意欲を持つ子どもたちを育むことができるよう、一層の普及を図っていく必要があります。
- ⑦成年年齢が18歳に引き下げられたことをふまえ、引き続き、発達段階に応じた主権者教育に取り組むとともに、将来の自立した消費者としての役割や責任についての学習を進めています。今後も主体的に社会を形成する力を育成する必要があります。

令和5年度を取組方向

- ①これからの時代を生きる子どもたちに、主体的に考え行動する力や、他者と協働して課題解決に取り組む力を育みます。引き続き、データサイエンスやプレゼンテーションにかかる知識・技能等を高めるとともに、課題研究や海外の生徒との交流等をとおして、これからの社会で必要とされる資質・能力（コンピテンシー）を育む学びに取り組めます。
- ②企業や大学の協力を得て、各学校において実施してきたM a a Sや地域の第一次産業を題材にした探究学習を通じて開発したS T E A Mプログラムを活用して、より発展した探究活動に取り組み、これからの時代に求められる創造力や課題発見・解決能力等の資質・能力を育成します。
- ③新型コロナウイルス感染症の影響に伴う、高校生就職を取り巻く環境の変化に対応するため、就職実現コーディネーターを県立高校に配置し、早期からの求人確保に加え、地域の魅力ある企業や職種などの情報を学校に提供することで、就職を希望するすべての生徒の就職実現につなげます。職業ポータルサイトに掲載する企業の仕事内容等の情報を充実させるとともに、キャリア学習支援員を配置して、入学後早い段階からのキャリア教育を推進します。特別な支援や配慮が必要な高校生一人ひとりの適性や希望に応じた就職実現と社会的自立に向けて、関係機関によるネットワーク会議を県内各地で新たに設置するとともに、入学後の早期からソーシャルスキルトレーニングや職場実習に取り組めます。
- ④実習船「しろちどり」については、令和5年度末の竣工をめざして、新しい実習船の建造を進めます。生徒の安全性を確保するとともに、航海や船舶の機関に関する実習をとおして、最先端の航海技術が習得できる設備を整備します。
- ⑤子どもたちが将来、国際的な視野を持ち、さまざまな分野で活躍していけるよう、国事業等も活用しながら、留学や海外研修を推進します。新型コロナウイルス感染症により海外への訪問が難しい場合でも、W e b会議システムを活用した海外の学校との交流等により、子どもたちの異文化への理解や、語学力・コミュニケーション能力等を高めます。
- ⑥児童生徒が英語を使って表現したり、伝え合ったりする力を高めるため、教員の指導力向上を図る研修会や、実践例の情報発信等を行います。また、民間団体や関係部局と連携して、中学生が郷土三重の魅力英語の「書くこと」や「話すこと」で発信するコンテストを実施します。県内の複数市町で、課題解決型学習の手法を取り入れた郷土教育に取り組むとともに、実践校の研究発表会を開催し、その成果を県内に普及します。

- ⑦成年年齢が18歳に引き下げられたことをふまえ、公民科の新たな科目「公共」における法や政治、経済等に関わる諸課題の学習や、家庭科における消費生活に係る学習など、主権者教育、消費者教育、環境教育などを引き続き推進し、社会の一員としての自覚と責任を持ち、自ら考え判断し課題の解決に向けて主体的に行動する力など、社会の形成者として必要な資質を育みます。

KPI（重要業績評価指標）

項目 (項目の説明)	令和3年度	4年度	5年度	8年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
目標を持って学習や活動に取り組んでいる子どもたちの割合 (「目標の達成をめざして、学習や活動ができていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした公立小中学生および県立高校生の割合)	小学生 92.7% 中学生 93.5% 高校生 73.1%	小学生 94.1% 中学生 94.8% 高校生 75.1%	小学生 95.5% 中学生 96.1% 高校生 77.1%	小学生 100% 中学生 100% 高校生 83.1%
	—	—	—	—
学校外の活動に自ら参加し、将来の進路を考えることにつなげている高校生の割合 (地域・社会、企業、大学等が実施する取組や活動、インターンシップ等への参加を通じて、将来の進路について考えることにつなげている県立高校生の割合)	—	高校生 65.0%	高校生 73.8%	高校生 100%
	—	—	—	—
国際的視野や論理的・科学的思考力、探究心を育む取組に参加した子どもたちの人数 (国際的視野を広げ、多様な価値観を理解したり、論理的・科学的思考力、探究心を育むために県が実施する取組に参加した子どもたちの人数)	中学生 684人 高校生 203人	中学生 850人 高校生 220人	中学生 1,040人 高校生 240人	中学生 1,600人 高校生 300人
	—	—	—	—
困難だと思ふことでも、前向きに考えて挑戦している高校生の割合 (「困難だと思ふことでも、前向きに考えて挑戦していますか」という質問に対して、肯定的な回答をした県立高校生の割合)	高校生 78.8%	高校生 79.8%	高校生 80.8%	高校生 83.8%
	—	—	—	—
地域や社会をよくするために、社会の形成者として権利を行使し責任を果たそうと考える高校生の割合 (「社会の一員として権利を行使し、義務と責任を果たそうと考えていますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に対して、肯定的な回答をした県立高校生の割合)	高校生 67.7%	高校生 70.1%	高校生 72.5%	高校生 79.7%
	—	—	—	—

⑤（一部新）地域とつなぐ職業教育充実支援事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R4) 4, 861千円 → (R5) 46, 511千円

事業概要：工業高校や農業高校等において老朽化している実習設備について、新たな設備への整備を行うとともに、生徒がより高度な専門的知識・技術を習得できるよう、全国規模の競技会への参加や看護・介護の実習を支援します。GAPに基づく学習を通じ、農業に関する実践力を身につけ、経営者や地域のリーダーとなる人材を育成します。

⑥実習船建造事業

（第10款 教育費 第4項 高等学校費 2 高等学校管理費）

予算額：(R4) — 千円 → (R5) 41, 000千円

（845, 662千円 → 1, 952, 212千円 ※2月補正含みベース）

事業概要：水産高校の航海実習における生徒の安全確保や、最先端の航海技術を習得できる環境を整えるため、令和5年度末の竣工に向けて、新たな実習船「しろちどり」を建造します。

⑦オンラインとリアルによる学校の枠を越えた学び推進事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 2 事務局費）

予算額：(R4) 3, 700千円 → (R5) 3, 331千円

事業概要：生徒の多様なニーズに応じた学びを実現するため、通信制課程において、オンラインでの交流や地域での探究活動など学びの充実に取り組みます。全日制課程においては、遠隔授業のモデル構築を進めるとともに、看護や福祉などの専門分野の放課後講座や大学進学講座など、学校の枠や地域を越えて学べるよう取り組みます。また、地域を学び場とした地域課題解決型学習を、学校や課程の枠を越えて実施します。